

sign

サイン

No.15

[最終号]



特集

中学生が伝えた 「慣れ親しんだ地域の魅力」

「私たちの校区の誇り」発表会

学びのコラム

教えて！いすぎ先生

郷土の誇りは 幼少期の 原体験から



(Q)座右の銘は？

(A)「人生に無駄なことはない」かな

(理由)これまでの人生を振り返って、思いがけない経験は、その後の経験につながっていることが多いから。

石動 瑞代

富山市教育委員
富山短期大学幼児教育学科教授

記憶に刻まれる幼い頃の経験

幼い頃に自然などに直接触れて得た感覚は「原体験」と呼ばれ、感性や郷土愛を育む土台となります。映画監督の新海誠氏は、小学校時代にスピードスケートを練習していた時に感じた、早朝の空気の冷たさや氷上の寒さ、湖面に差し込む朝日の輝きといった記憶がずっと心に刻まれ、現在の映像表現に影響しているのではないかと語っていました。幼少期の「体感」が表現の礎となり、人の心に響くのだと深く納得します。私自身、庭に咲く花の香りや「キーン」と張りつめた冷たい空気“など、感覚を伴った記憶は、今も鮮明によみがえってきます。

豊かな自然と食の宝庫

富山は四季の自然の移ろいや豊かな食に恵まれた原体験の宝庫です。子どもたちが五感を伴う豊かな経験を重ねることは、知識を学ぶこと以上に重要です。そして、日々の暮らしの中に、水音や風、雄大な山海と光の波、旬の味覚など、心動かす環境との出会いが保障されていることは、とても素晴らしいことです。郷土への愛着は、教わる以前に「感じる」ことで育まれていくものだと思います。

未来の誇りを育む時間を

今はまだ、難しい知識は必要ありません。身近な自然や文化に親子で触れ、「きれいだね」「不思議だね」と心を動かす時間を大切にしませんか。その時に共有した驚きや感動が、子どもの心に深く刻まれ、愛しいものとなっていきます。その豊かな体験こそが、成長した時、「ふるさと」を誇らしく語るための確かな源泉となるのです。

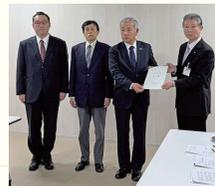
学校再編新聞

令和9年4月から山田中が城山中、八尾中に編入



富山市山田地域自治振興会の山田憲彰会長と山田PTAの谷上大輔会長、山田小中教育振興会の岩杉陽一会長が12月22日、山田中学校の通学区区域を変更し、生徒が近隣の城山中、八尾中へ通学できる措置を取るよう、藤井裕久市長と宮口克志教育長に申し入れた。また、金厚有豊、横野昭の両市議が同席した。令和7年度の山田中の生徒数は、1年生7人、2年生8人、3年生9人の計24人となっており、少子化の影響で減少傾向にある。加えて山田

生徒数の減少に対応



小6年生の多くが学校選択制で区域外の中学校への入学を希望しており、山田中の生徒はさらに減少する見込み。山田自治振興会長らは、通学区区域の変更のほか、スクールバスの運行や在校生と保護者の心理的・経済的負担の軽減、編入後の空き教室の有効活用を求めた。市長と教育長は、「思いを受け止め調整を進める」と応じた。市教委は、令和9年4月からの通学区区域変更に向け、スクールバスの導入について、前向きに検討を進めているという。



◀ YouTube やってます!

signへのご意見・ご感想はこちらからお願いいたします



発行・編集 富山市教育委員会事務局 学校再編推進課
電話番号 076-443-2241 E-mail:gakkousaihen@city.toyama.lg.jp

ニュースレターのタイトル「sign」
私たちは「保護者」「学校」「市」がこのニュースレターを通じて
野球のような「サイン」を送り合うという意味を込めています。

中学生が伝えた「私たちの校区の誇り」

地域を知ることが 「住み続ける愛着」に

2025年11月30日、富山市の中学生がそれぞれの校区の魅力を伝える「私たちの校区の誇り」発表会を行いました。市内10中学校の生徒がみずからの校区の歴史や見どころを発表したほか、地域の魅力を未来に伝えていく意義についても意見を交わしました。



八尾中学校

ここまでの準備自体が「皆さんの力になる！」

この発表会は、富山市の中学生が自身の中学校区の歴史や文化、自然、地場産業、地域の偉人等について探究的に学び、その内容を発表し合うもの。当日は、10校の生徒がそれぞれの校区の「誇り」を語りました。いくつかの学校は英語で発表するなど、子どもたちにとって新しい挑戦の機会にもなりました。

中学生の発表に先駆けて、宮口克志教育長と、藤井裕久市長から挨拶がありました。宮口教育長は「この発表に至るまで、生徒の皆さんはさまざまな方法で情報を収集してきたと思います。さらには、それらの情報を仲間とともにまとめ、試行錯誤しながら発表の準備をしてきたでしょう。この過程こそが意義深く、皆さんの大きな力になるに違いありません」と伝えました。

藤井市長は、今回英語でプレゼンするグループもあることから、「こうした英語でのコミュニケーションを積極的に行ってほしい」とコメント。「海外から日本を訪れる方が増え、世界中の人たちと意思疎通できる時代になっています。今回のように英語で話す機会を作り、さまざまな国の方々とコミュニケーションを取っていただきたいと思います」と言葉をかけました。



水橋中学校



堀川中学校

「富山市中学生による『私たちの校区の誇り』発表会」

発表形式	学校名	発表テーマ
プレゼンテーション	岩瀬中学校	Iwase Times Selection ～校区のオススメの場所紹介～
	水橋中学校	We love Mizuhashi! ～水橋の魅力発信～
	和合中学校	富山飛行場の歴史について
	八尾中学校	八尾の魅力を発信～知る・比べる・プロデュースする～
	城山中学校	歴史の街をロゲイニング
ポスターセッション	芝園中学校	とやまの魅力再発見
	堀川中学校	南富山まちづくりについての探究
	北部中学校	戦国時代にお城があった
	呉羽中学校	呉羽梨と朝乃山について
	藤ノ木中学校	藤ノ木地区の防災についての探究



和合中学校

なぜ倉垣飛行場は消えてしまったのか？

発表会では、各中学校が工夫を凝らしたプレゼンを披露しました。和合中学校は、同校の敷地にかつて建てられていた「倉垣飛行場」についての調査内容を発表しました。

1920年代後半の日本各地では、飛行場を作る動きが広がっていました。さらに同じ頃、軍用機を献納する運動も全国で活発になり、富山県でも募金活動で集めた資金をもとに軍用機を献納。残った資金で何をするか話し合われる中で、飛行場の建設が決まったといいます。さまざまな土地が候補に挙がる中、選ばれたのが今の和合中のある場所でした。

こうして1933年に開場した倉垣飛行場でしたが、やがて戦争のための施設へと変わっていきます。さらに敗戦後には、飛行機は焼却され、建材や機械部品も盗難に……。飛行場としての最期を迎えました。しかしその後、住民の努力でコンクリートの跡地を田畑に戻していったとのこと。生徒たちは、こうした知られざる歴史を克明に語りました。



岩瀬中学校

岩瀬中学校は、校区内のおすすめの場所を紹介。岩瀬名物の和菓子や販売する店などをピックアップしたほか、岩瀬地区の観光施設や祭りについても発表しました。

呉羽中学校は、地域の特産品である「呉羽梨」や、朝乃山をはじめとする地元出身力士をクローズアップ。

北部中学校は「戦国時代にお城があった」というテーマで発表を行い、大村城跡を筆頭に、学区内に存在している歴史遺構を紹介しました。発表した生徒の1人は「家から5分ほどの場所に古墳があったと知ってびっくりした」と、今回の調査による驚きを振り返りました。



呉羽中学校



藤ノ木中学校

故郷の魅力を守るために必要なことは？

発表後、藤井市長と宮口教育長、そして生徒たちによる座談会を実施し、東部中学校の生徒は「富山市の中には、地域ごとに長い間受け継がれてきたものがたくさんあると感じました。それらを各地域が独自に伝えるだけでなく、富山市の魅力として市全体に発信することが大事ではないでしょうか。それによって市民が富山市の魅力や再発見し、故郷に誇りを持つことにつながると思います」と、市が1つになって歴史を伝えていく意義を口にした。

南部中学校の生徒は「地域のいいところを守るためには、その地を支えてきた人の思いを受け継ぎながら、小さな努力を積み重ねていくことが必要だと思いました」と感想を述べました。

発表会の終盤には、全員で「ふるさと」を斉唱。参加した69名の中学生の声が響き渡りました。自分たちの校区について調べ、その魅力を伝えたこの日。きっと、ふるさとに対する愛着が増した生徒も多かったのではないのでしょうか。



芝園中学校

北部中学校



東部中学校



城山中学校



南部中学校

junior high school

